

口頭発表

生き物を活用した活動の特性 —生き物の世話を体験した小学生の記述から—

土田あさみ*・藤岡真実・横山 直・木本直希

東京農業大学農学部

Activity with animals and plants - Investigation of descriptions written by children who participated in activities caring for animals or plants

TSUCHIDA Asami*, FUJIOKA Mmi, YOKOYAMA Nao, KIMOTO Naoki

背景・目的

我々はより適切な動物を活用した活動プログラムの開発を目指して、動物を活用した活動の特性について調査してきた。これまでのところ、動物と直接かかわる経験をした児童のビデオ映像や感想文内容等から、動物とかかわることは児童にとって楽しいもののかかわった内容よりもふれあったことの方が強く記憶される傾向にあったこと、児童がウマにニンジンを与えるときに児童がウマを注視する時間は活動者側の条件に影響を受けるが、その時の児童の感想文の内容は影響を受けないこと、活動内容への理解は児童の学年に影響を受けること等を明らかにした(土田ら2012, 2013, 2015)。今回は、動物の世話活動を体験した児童の感想文を、環境に配慮した福祉ガーデンの手入れを体験した児童の感想文と比較し、動物にかかわる活動の特性について検討した。動物の世話とガーデンの手入れの体験内容はそれぞれ異なるため、感想文の記述割合と頻度の高い文言の出現割合に着目した。

調査対象

2012年10月から2014年12月までの計19回の動物の世話活動に、累計177名(男子57名, 女子120名)の児童が参加し、また、計10回のガーデンの手入れに累計32名の児童(男子14名, 女子18名)が参加し、それぞれ活動終了後に感想文を書いてもらった。これら児童が活動に参加して感想文を記述した割合について検討した。全ての活動は、保護者に活動内容を説明の上同意書の提出の上実施した。

結果

参加者の参加回数と感想文中で最も高い頻度でみられた形容詞句「楽しい」の記述割合に焦点をあてて、感想文を分析した。ガーデンの手入れの募集では定員に満たないことが多かった。そのため、リピーター率が動物との活動よりも高い割合を示した。高学年の感想文の文字数は、2回目以降で動物との参加者よりガーデンの参加者の方が多かった。活動参加者で感想文を記述した割合は、初回参加では動物もガーデンも同じ程度であったが、2回目以降の参加では、明らかにガーデン活動に参加した児童のほうが動物との活動に参加した児童より高い割合で記述した。また「楽しい」という単語は動物との活動に参加した児童の場合、2回目以降の参加で明らかに減少した。男女でみると、感想文の記述割合は変わらなかったが、「楽しい」と記述したのは、動物では女子が男子より多い傾向がみられた。

考察

動物との活動は、児童にとってとても魅力的だが、世話活動そのものはいつもほとんど同じなので活動内容そのものについては文章にすることが少なくなり、活動者に工夫が必要であった。一方、ガーデンの手入れ活動は広報において参加者が集まりにくく活動が中止になることがあったが、参加者にとっては活動内容が多彩で、実際にやってみると楽しいと記述する内容が多い活動であった。以上のことから、動物の世話やガーデニングはそれぞれに児童に提供できる刺激や興味の対象が異なることが明らかとなった。今後は、この両者を組み込んだ形で活動を行なうことができ

*連絡先: a3tsuchi@nodai.ac.jp

ば、参加ごとに違う発見をしやすい、楽しく学びのある活動が可能であろうと思われる。

参考文献

土田あさみ, 横山 直, 木本直希. 2012. 児童の飼育体験活動における活動評価のための指標について. 第5回動物介在教育・療法学会学術大会発表要旨集, 15.

上角良太, 富田宏美, 土田あさみ, 横山 直, 木本直希. 2013. 動物を活用した活動における評価指標について: ウマの注視時間に関する検討. 動物介在教育・療法学雑誌, 4, 35.

土田あさみ, 横山 直, 木本直樹. 2016. 動物を活用した活動における評価指標について: ウマの注視時間に関する検討 II. 動物介在教育・療法学雑誌, 7, 13.